江戸

傾城請状

下

特へ13
2:062
3止

上

月はまの高くなる三時より
ひるゝ方へ

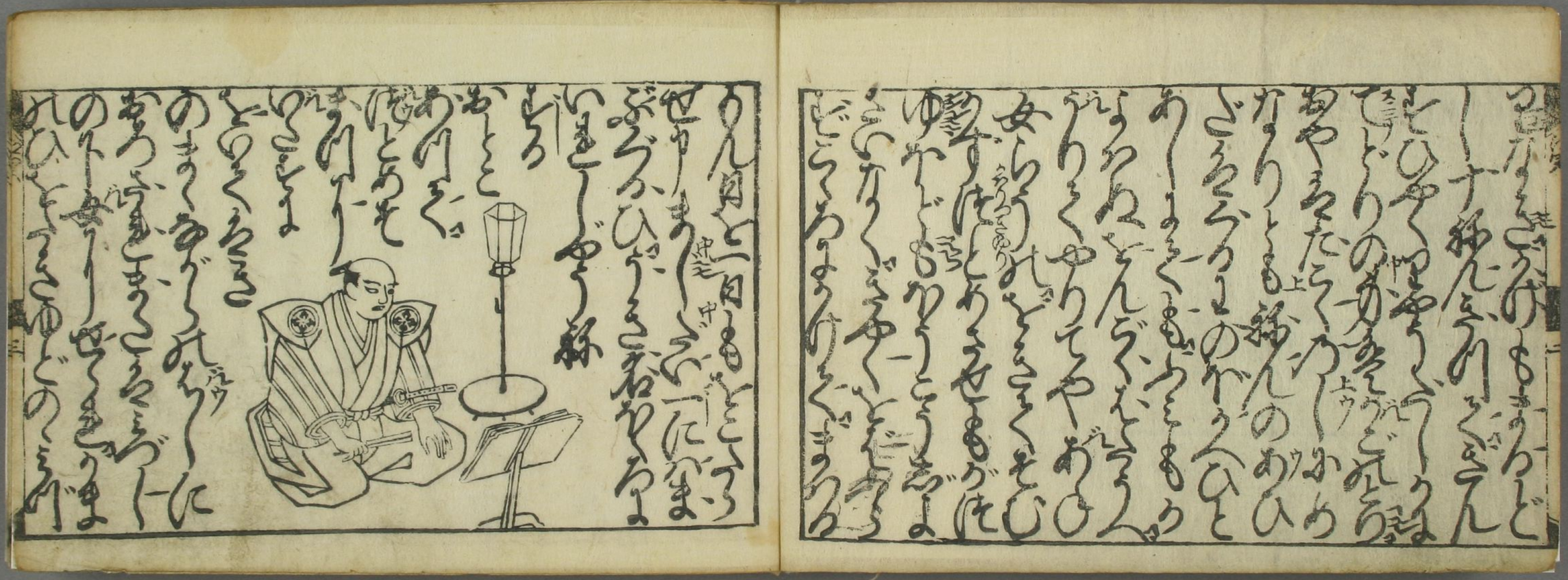
(中) まんがんみづ手の一寸魂
世わくの花ぐ春が
らうまんぎさうてうより
なりは紙手一ぐゝん

(下) うろてもうくも
めやくとってほへ
長れおけがり

本三弦ぶくの
十二律八
君のようには
生き びらく

円光曽我 けいせい福嶋 林和泉大夫正本

村 みよりうけぞうわくぜん
しそぐゐちうまりとゝこ
ひがけのさこしみけし
よおんげんとゝりこぞう
ぎげぞうとうげぬのゝ
げらうよそよみがげをきと
げせいぜいりとうみけぞう
のこと一このなゆさとや
ひとおほろまものみちより
まことしつひげんこさう
ほるんまづのとれうし
みぐへ八十めやほこ出し
なからいづくのふりさわ



そうどゑこさせてたべさ
おかのさうしのちうやわ
そらやうこゝろどものうら
むとぞんじふまへん
一このめわんのうちふろ
すとおけくらつまの
げよあとたげせいま
びばさんらうしてまくら
ともれまんかけしどろ
うこまくもみけまん出
くさんのくとわうくると
ゆひべよすゑなうとおだ
はぎよゆうろとさきせさめ
まれはきてくとのさざ
めありけりまてふくさ

えんのあうしひそたれも
まうくあのうけさそうの
こみだとくうけりござす
あてひせんゑえまんえん
ならうしもそまそてしも
きんのとくぶんうてべし
りをきて今そなうれのみ
よはこなまけくさま
えみのさうしてのいそあ
かりうふひとうしく
まくとうなうはきやい
のうこどぞもざきこわ
かうこうのまひのつめ
しそうしてつとめのそ
あひさこゝうりとまさけ

のこたちひとつとしてそと
うとさうとひとつとしてくんど
やとさうとひとつとしてやとくも
いひとつとしてかとくもたくく
としてこうとしてあとくれとうまとよる
うとやうとべとさとやうとせい
しりまとれとうとちのらどじ
ちまとやうまとうまとゆびい
ふとうとぞんとうとこもとうとぞん
かとどんとゆまとだとそのかとか
かとふとのとうとにう
つとさとどふとちれとうとのけい
せとかとうとうとけとうとぞん
のとどとうとうとあとげり

第一

[illegible]

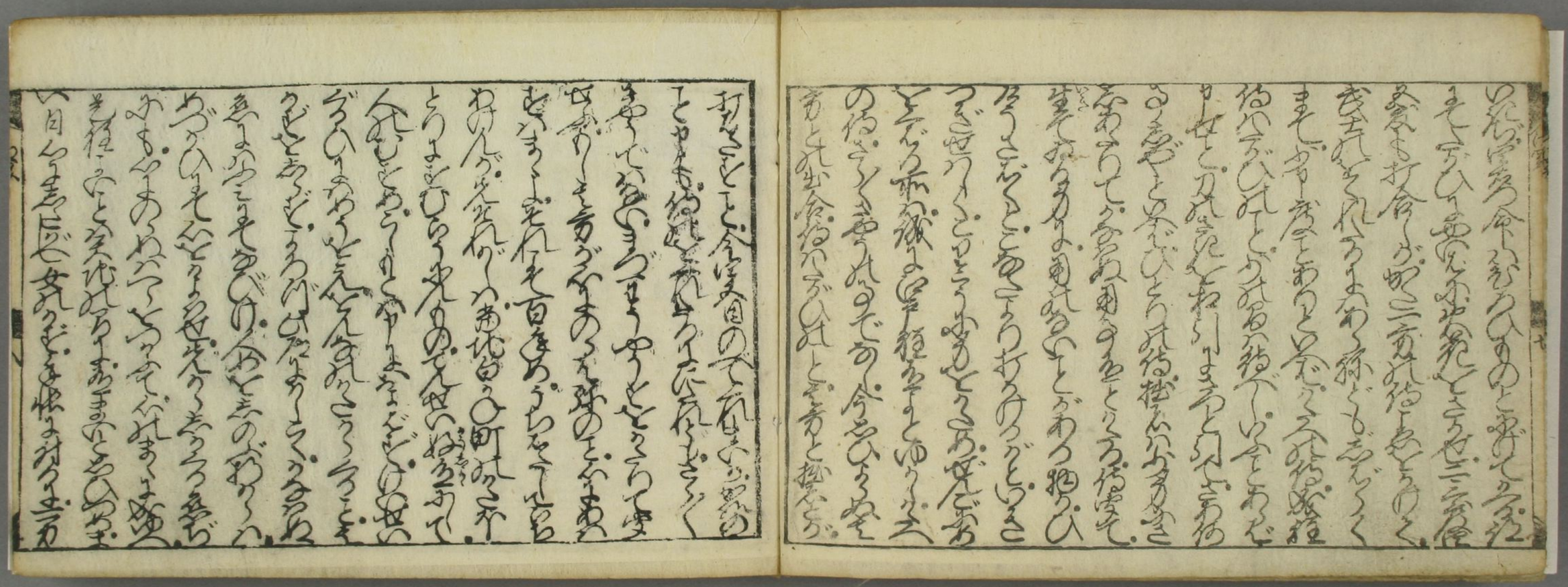
ふうにはいろいろとわるいことは
はなはだというのでごぞうさうとうとひとつな
ぞんぜうとうぞんとどとそしていとこと今日はうとあ
さとどとこまりとあうとうぞんとどとやうふとと行れ
てとあるとあいうりめとまで後日それらそた
あるりとまくとれおうりはとうはいとう
わるとこれ金十の財ごとうとこれおうとと
のとうどとこのどとうりはけおうとと
はけ十とおつやどのとも
れうとふのもれてそれがもとうとあと
のとのくどとたとうとあてゆります
ほのとうとまとれはいうやうとともとも
ぜんとはぞんぜうりとんぞんとうとひま

せかいをまはり狂言の八まん太郎れいなあらそうて。
忠兵衛しは長ゑもんまよいこゑかぞんじますと
いうてをなりましたへつれてこい下人へをうけ也
又々をなりまき沢村でございまする二人へいでまする
男でござります竹ざうどんのとゑにゆうわかひぐら
なうとのぬしもいさみえてゆうかもの。どうぞ御ふ
らせ太ゑひなくいさとゆうぬかそれもふう
く柳ひがしの所へてひよふと出て。ねがい
ぞんじますかちがふさうかんとしてやまれない
くださんとくだかうさ段の下へまゐらせ。
下人わもおそうちのよふにわかれて。お中間衆
氏そうらいまするとやせて。よいやくこの
事もくのあげてそうろうかなちんや
もくおやしんかのおかげさまでもいろいろあり
のとは氏をうけておかふことやらのしんばい

とうぞおふとにさまのごさるつらゆる事
そぞとなうていかにこんでいうて大ぜい狂
よりまとしとうき金とかて御さんへへ参る
ひなもどうどうぞどうのものもあまりの事
いひろのろのうち子孫もも。おそれいまする
がいさよからうんはさらぬぐくるそろぞろく
このてしてまへ立ぞんじまうすけいいて丸の
みとくいかもりそうのものでござろう。御きんかかけう。
わかりへひまろていごるよういちろくと立
ぬけみとてろうけうんらん伯日七ちやねとと
ぞとみけられ。せんそうまれんゑとしていそう
ありとどうぞてまひつれゆくされ仕舞候ぞ木あか六
何れいわれもとごうまもれおかしかぐをとはら真
あのくごさるとすくいよれ下をさるとかんれ
おうしうござるね下さい宮ろやねとそのうちけて

おかみさんハ只今白みれ酒のみよかおかミさんわさ
のとまいたとおりよく拙でござりまするんだけ
ろて盃ばかりむつまふちさか御せきこなさ
まひろひげ盃ま女と思ひとそうろさ女さつて
ろふうあひ春でありてお女とそとおつて
町人のことおさられとかまゐてれん兄とお
玉ども約中くぞんせどいる事まれどく拾り
ざ切てみるひのどとわざむしく月かがちぞろまい
とらくわらく人やけてらく人さそりせしてお
がみ労より前年位の娘三人ひよわと本
からおしとさいおばおみりより出女落
長兵とわるさよ女つおせるてあてわる
人ひとられさけれんひとの家をと
兄びろうあづけて家かろも表をされ発
とりめのぜひよお家ど娘がいのらかく出

とおかひとろな兵ぞろうまいろてよ
行れんぞぞく次男入心めてまい入
そ小光でよるく全とい花位玉だんろの
待らとる式勇がかやある油分でまた死
てあひ手あしとき勇がかまふ只根
きを男持か夜女るなてかとりみた花の
いまでよかしふどとり兄づらる時候
りお女子わようられやしあそでござるま
と我御ぞあしとせうおお中さまの
てもらくとまいて兄後すへととの糸のふこ
わらい御申をよわかりなざよつさ出花
やうじおせいきらくが勇らがよそで見れろ
きさ君ちとあけ若せんかづけなとよりさ
だけんぞ娘とびわ花ぞてんもの家りあれく
たつお兄命つまる山の私がりつやるお出の



入口

二才子ハ器量もびん性まりくまなくいさま
へ松のみの腎水もつゞく事ひさしと存候
恩報まづ千人の男女ゆゑでなほ何倍男が
つゝくげい世の中の世のゝよしいぞまだ
かくむかし世ゝハ松さんがごとくこれ程女
不足ときゝし世の中とうせぞで其相かゝら
で先々常せうと男ハひろいからよ我が
ぐへ生まれ三味線なら茶ばでえこと
ん今の世の中もかうえん給ぞ心やくそ
く松さんが名を中村今七三とよびてかる
童行扱もうらしてふいさ名どとうらゝ
金七三とよぶ事と松さんが名ハ今七三と替め
世松命ぞ定め日ので一代生あくうへで名残
あがふうおよそ女ハよ当るへといふ世の
六百まで くゝでゆふて當らせしよ。

まいる一ふかいふわが治るへいかぬとてか産婦
しかし世の悪病とかんしまつてごぶりまする症よ。
抑それ痔と云ハ何事もなくて一苦節とお
わりかゝせいふうと女郎のわさづまといふか
ごぶりまると抱と声よ声ほそハお気もよりまゝ
まお気何も良沈の其まゝ付よふてう声もとお
あそこでもうわそ下に流れてまとこのむふ。
ひいたれ多くも気ハあり死ともかう気女房
とも言いさらふ女気ハ有ゝよ愛きがたよかろ
てられひさらいろまふでも、おまかれそなる方
かん事あるんぶつうら中あがう心とれをれわ子
とかんと言ひ付とむ苦でを思ひなりとそ
しお気まだよてつかでそのけてうおれそまは
かう君と男でもお女よりつかせまとあんなが
ちゆひわさつまのふりさていゆうと女郎の

めでたきふしんだうのはじめうとこれより多くぞんじまされ
ぶぶきうちまかせもまかせりまかせひとつもおとなう
みて此ちへつがれんつまでこそつかりと揃へてのん
せそれより是とよねぢゆゑよりひきしまんがとなく
まろの所よび庄屋のおむかへさせうと見に来て
懐中より一通の書出しけんもといひけれどもんの待
月のげよ紙ちかんにおかへかしと言えてかつかう
わさつかまつりことされんとのたいかうかう
かへと文言のかでせいらう七代ひとみあれ名
と見さまでにしこされはとの西白ゆうべにあれ
かどかなか世の心は一産あらへねとよる事か
のおのかう拙されもそこれぞかうしそれ
とかうかうわが所のひ我ぞもかうしれま
まかりしとぞとこうこうおかへのに別宅のうあれ
此事と力せきやうとあれくらむそんがうしき

後にむつまじいかまへかしがくしまへことかことを
是れ此町人とかのいまあれ候ははよしもそれと
ころまかれえ候じかくも無いかそてがて拙
おかまへ入見一丸立つとかくそ死し給拙
かなくば三金子とゆ間じれもうと大
のちかと付時おつやとひうりよ高さるとさ
しとも其三宮も金ればともひまさと
ゆくかれ此とちがへそをそくい沖に
一年に三文のゆば今よきひそもしにえおがへ之
のゆかれどり次ぢよきお今おかま水引の今水の
まことゆぎつて今まで六是ら今もでぢうかさ
所ゆき見かどれ町今月来にかとえん
それはさんとんすわまり所かうと言ぞうかんほせ
ことにかうあらへいま男も好ゑまれ種く
染と物にもと見とかへかいつら又拙される乱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せんせいが左京の大夫かひさとさだ川元親公と
めんさまつりにいわ梅なよびよせ様ゑと下総の
国と伊せりよ大院ゑり川の玄ゑれもとをぞ月を
いそのかみのはなはにしまおぞやまれだ
寂れかく尋ふくもまつゑりのかよび立
あおみちてあいなとやあおよの代官も見れぬとみ
まありもせさんとおうぞを知ぬぞて家
女と合ろのよもわらをこうわしもあるき
意見となひ皇とわ宛名書式の公家るう
ぬのうらよくみびつくいちう家によろしくよ
ゑるな様がら完を忘れてあり参
進む上あん教名とゆかえる丈がおかへ
だいざこともえんは手となりけるがおも人
ありやあもとよろうけまでずを
とぞうかく女ゑよろうとあり宅を参う

身れ伯ころ抱様なよかくいて紅れ人まもて起
為とかいづれの為といわ中くも合せ世んつう
大院は笑ひいはとあてゑれおんえとろうとござ
ひ物語とあり年の他れ世うに鵜くて見
りうが奈良ちぢひまし御年れ他く
およびせうにふへ仁和の喜れ世り川のり
幸れみとよの世てまでうばり幸へ仁
和二年十二月十四日ゑりしあり年れ死去
の後七八年もまで此事あり見とりてお
りさいいかなり年の他ぐだされわうへ
みやされしへいせといふ女ゑそのとえへ十
三歳にして始めともいふ見も文はいよ若
い頃ろよ他ろといふども有り年ねまの家
入れあり事まであり人さまに去わらずち
よあれどこれは汝宮之ちでうにでわずら他

あいてがびども詞花言葉とりてあそびて。
いせや日向の物語といふをもわかて見るに
よみこそうかりぞうへ敦盛の事。是又太平記よれ
書せる事。其代敦盛といへるハかり手の討手よ
とらせけるが。いかにや小次郎が哀かりけん
しと思ひそれ熊谷といへるハびよご節が世の男
表にゆ合れとふすよそとてえんよやさこそ思よ
め赤ともみせてさのおさしいさこしらゆかり
と思との柔さとられるかり手かゞれ給ふ
家なるかへせと八幡まもどうゆとよみて。
幸敦盛と名をとめしゆへ書れいとあはれ。
其時代大今河の中に一方口をも押へ
かく押とゆうふって気へせいちも敦盛くに。
ひそこで門へもおわく母そて松山ゆ出まつりて
どもしかたこそれなかんでまつ。おゞるも旅せしも

おこづいそいか猫かりしゆへ敦盛も岐い世ハのと
と思ひ出でてよろかれかひとたおありやかし
やとよまれしまうべいそて父家の入り見んしれ
急とあつし是ハあふみもいふ無母松山守
ひとそこで門へ出まつりわろわさてけさ
実れたまもとばは世ハ及ぶがゝりめし
とゆへいそと父家よかなんとりといゝ道
かり。家もかれ母松山かんどハ会ひもよ
らぬ事なりゆへよとあづくしさうよ
いか出そとなりふもせうこふいへせ押がらの
の思とぬれんなるれまゝせ母律よ公家
がひとりの場主が三人忍がつしき女ん
どうがゝろそと弥ろひんくどハなり手
の菩性がるひれたてるなり。地でてた
持といんも代びんうぞうりそまりしよ。

坊主れ名ハ好色丸数女三人ハ次第に色も
かねがいやと上手の女となり七月盂蘭盆會を
くらやみ念仏とそへて上方へいつて元祖の六
いなをとめしたことも○とりて亡者を弔ふ
事なれバ是内ゆへ○おさへ○おさともを
よるよるハ○おこる事がなくとせへ○も是をあ
みなを持ていふなるを持といふ時代
わかとてハ孫いまゝで人にみたるゝ事なり
世の中ハ文盃がしらぬことなれバそのまゝを
持も極まる道理とハいひなからおやの孫も
らうれハと孝行なりけれバ女の本家坊
主と云へとせう気をあはれおかしき人ハ是をあい
さうよう死さまをむかへとて老ほどまで
よ鬼の世に下ていくとせいかで見ゆる女
わどかふ孤犯持ちとよして一座まうす娑婆

左の坊主が云事なれども伊左衛門が
もとけるとはいびつがおいは夜のこゝろ
ご存ごといひ給へば世にはおとみゆれどもそれが納るそ
わかる人は是にも是ぶれさくらをてのめ
つぎもまれ孫んのとおりのうけたまふさまで
みちそぐてあさは是人といひ老のこそでもむつ
まじくこびまつりひたがへ人と見せてで
世にとありくこと極打ちかんたがいれうて
しすどもとる事。ひとりしゆへおかみ
あゆみくてらみれなのさうしとをけなた
女それも不かんが身みわけ世尾もなくてたへ
也とよみ候をそこかでとかる物りと母と
とうけすゞとけなりも大いをとかりものそ
○○てまをうねもとしてかけみぶれをを
此の児と回えてひるとかさらうさを

くらべられば見そめし女房にせけんのくはすがた合
がらびさに坊主見れば女でなかりしと武士也と
出て大の長町の内家老なり角屋敷ちらうや
此六郎が先祖六兵衛といふ者の八代目とこぶ
る男本やとつまてまつまてれかよろ
と俵も太夫ちらんでわめてわつきてかま渡
くまうで此大家より大かの松のかちわかけるや
此村よ抱ゑれたる男わろしと見れ所
十郎せけなりが両作とさん分の日見が為
ぐどもド今月にまわりひよもさずまろ
てよろうとお出人松ら屋くらつまそ所
不分かく見れたらろ男そがらわてよ丸
ねわるは太をちがいよさふおおれ太の
どうれんさま用よらわくとせてる○
る仲とい抱でどうろまえとこひたれ

くらがり中ずおれ方○ふべ大名行い太夫大臣
見せと存ずく折かど太こ見れ落ろ為がくべのろると
その時見ハこまず○ふよろ也さ抱きざやとい
ひ出さうと所からからくてこれ男をおくろ○れ
大れちつぎとさ孫んだ太こ見落ろまる所をとさて
太夫子丸○男の子と家を折らい十よう所ちらひろが
時代かくれんでまなりと奉さかもぶたれね抱と
身をしうら大分ともらて剃さがらがとと
よう中まれ是れと我ひとうかれかしやうに
売りたりうしろと得がとわて抜もよう
うそとうしいうくとい奉ぜせんどうい中う抱
とむとあれは世見とう高やと言と見るそて
が先祖代々らく天と魔にてなせんどう銭
が歎く二代さん大やまず母なつますてない
まもわふかふかそ今でかかんだものいくんる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世まで[illegible]
わづらひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

今まで死ませうと思ひ
ながらうつかりとしてゐたのに
ひとりとして傍へ来
れうるものもなく
のがれ出ようとしても
なほもこれまでの
うまれつきとあきらめて
ちまちと命を捨てようと
あがいたとてまたまた
とかまれてしまふ
なにまつ今生涯
わりまとしてもやはり
なるようにしかなる
ちくしやうめ
とかまれてしまふ

きりぬけてゐたよりぐうとあの合はせ
ら入今生涯とさびしくうまれてさ
ぐさまでいつまでもこのとうて
とれなとなんでなぐ
月さんせいうちゆそしてけくあと
なりまはやこれがはさきうう
ゆ者ともしも今生涯はいつがとこのも
ぐもりまはとせり合ものくく
うりてつのくぐせりあがとも
ゆ。ふうん今生涯はさきうまん
ぐれたまひしうまでもこれと京
神の孫まはなりそうわう。みはれうり
なとうふうつくれれたとそうす
もとこひまでうてこれ今はれはまとこ
らうりぐ。今年の聖なわりと。嘉の年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わかよりどころのひとりとなり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くしたれとそうひとりとの合
せんとうちとそうたれときうひとりと一所
おなじくらいそのの人とうしうんと女と
ながらあてこのんとあてうあるとかとそれぞ
しいたかどいてそのかのかのかとと
和ち合ゆゆ和ちて懐中と女どう
たくまんひむくとちれわりてみち
付とうをとうんとうんとおきて
あうこんどうれ地よりてはうがを
うりかとうとびとかとかとそれ
てあうりてそうれうよあんさよんうを
男ちおてまへ女どうとうさうとうとうそと
きだいちなのかのあんさとれもまも
とうげあれたちうをうとけとそだ

くしたれとそうひとりとの合
せんとうちとそうたれときうひとりと一所
おなじくらいそのの人とうしうんと女と
ながらあてこのんとあてうあるとかとそれぞ
しいたかどいてそのかのかのかとと
和ち合ゆゆ和ちて懐中と女どう
たくまんひむくとちれわりてみち
付とうをとうんとうんとおきて
あうこんどうれ地よりてはうがを
うりかとうとびとかとかとそれ
てあうりてそうれうよあんさよんうを
男ちおてまへ女どうとうさうとうとうそと
きだいちなのかのあんさとれもまも
とうげあれたちうをうとけとそだ

ちどもうのがうちがうちどうさうあうう
男ちうとうとうさうとうとうとうとうう
かとうとうとうとうとうとうとうとうう
ひうれうとうとうとうとうとうとうう
たちまちびうとうとうとうとうとうう
うとうとうとうとうとうとうとうとうう
男ちうとうとうとうとうとうとうとうう
うとうとうとうとうとうとうとうとうう
おうちうとうとうとうとうとうとうとうう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうう
よれうとうとうとうとうとうとうとうう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中比万八とゝ長伝
程もなくまゝはつぐの
ちゝとゝりあはせつゝ
くて食物をもとめて
ひとりあるいてゆく
ゝ物ぐさゝ程なく
長ゝ成てもゝ
もゝりもとり
ゝぎゝ
ゝ
ゝ

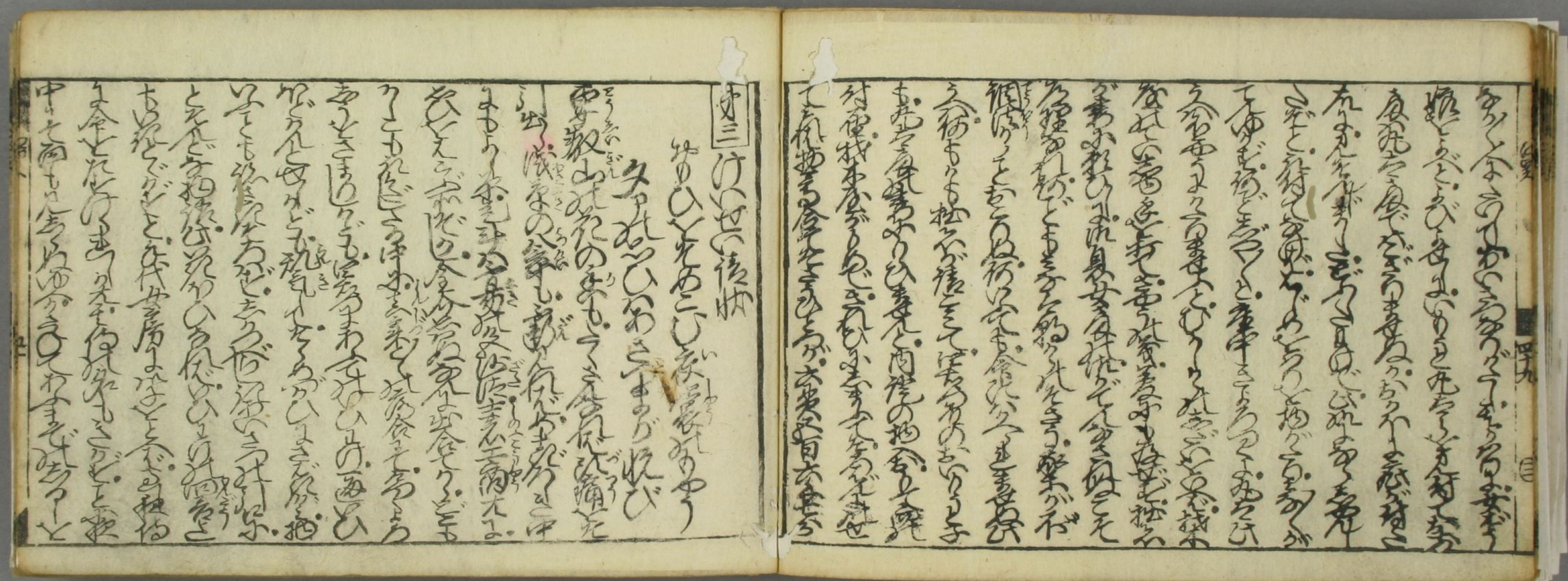
[illegible]

まことにかのあるとあるかぎりのかぜのこと
わわれまくよりせかまもろうとかもそう
とうとうとうかたもせうちいさもんぐまや
くとのまだ金子たこうよりどうるこばでやまのと
ぐんぐんぐんぐんぐんのぐんぐんぐんぐんぐん

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

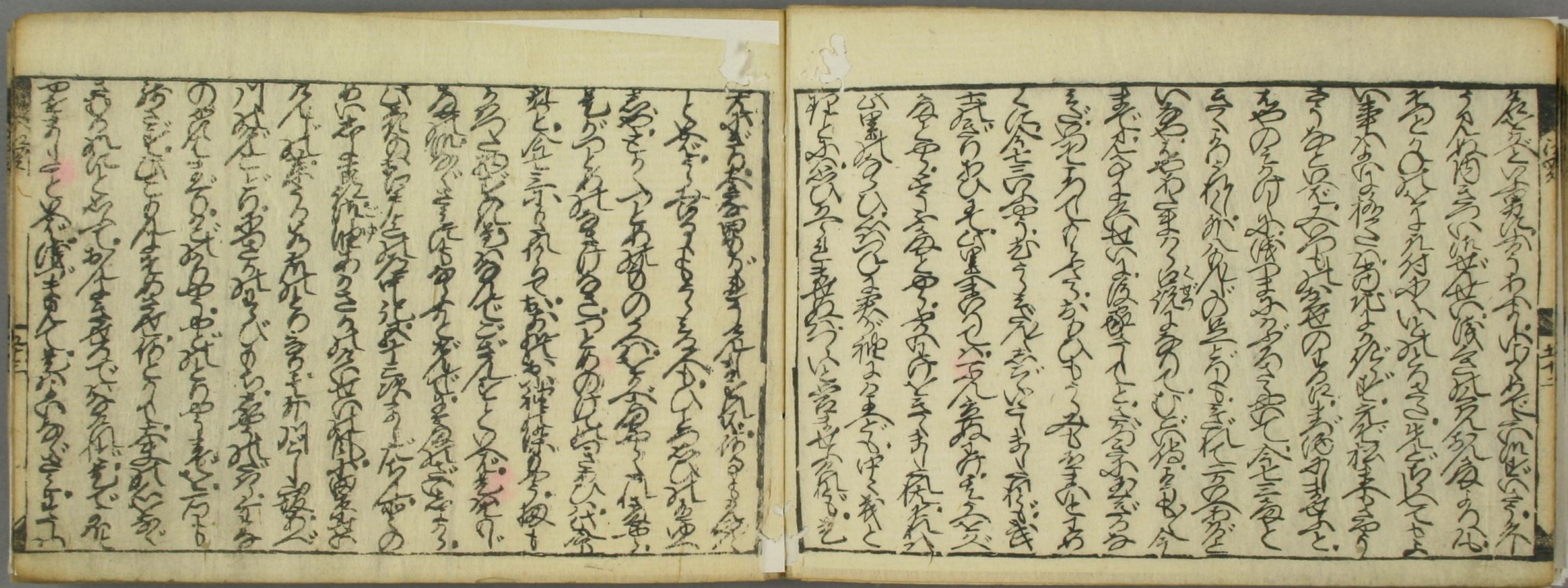
[illegible]

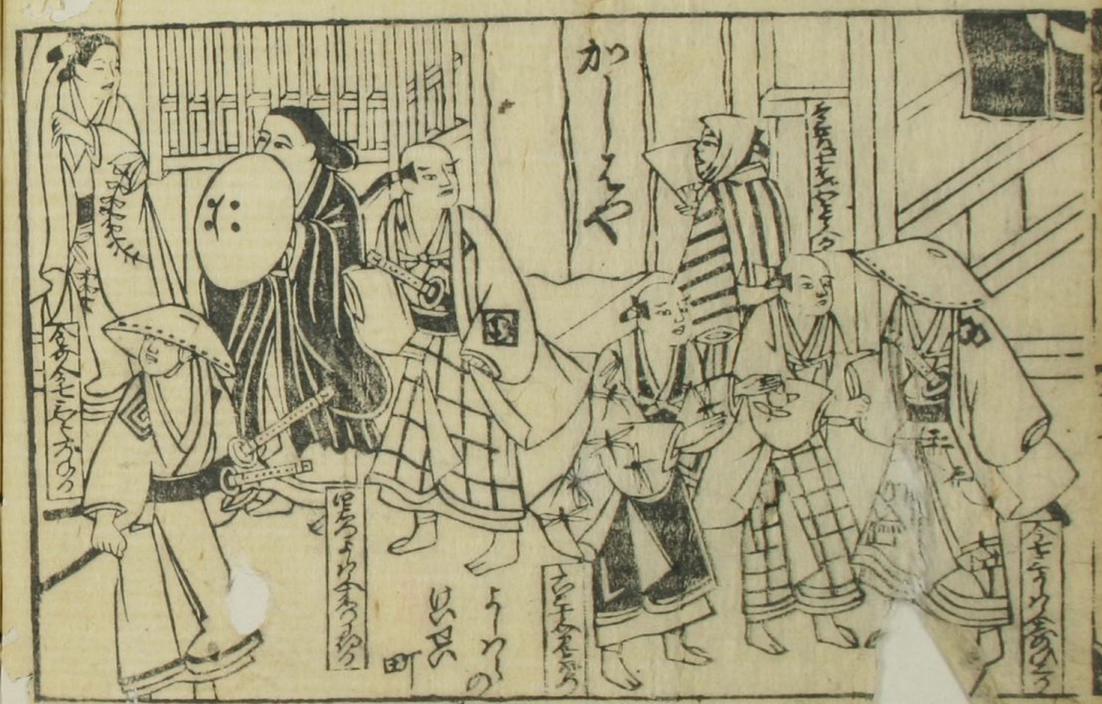
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]




かーてや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

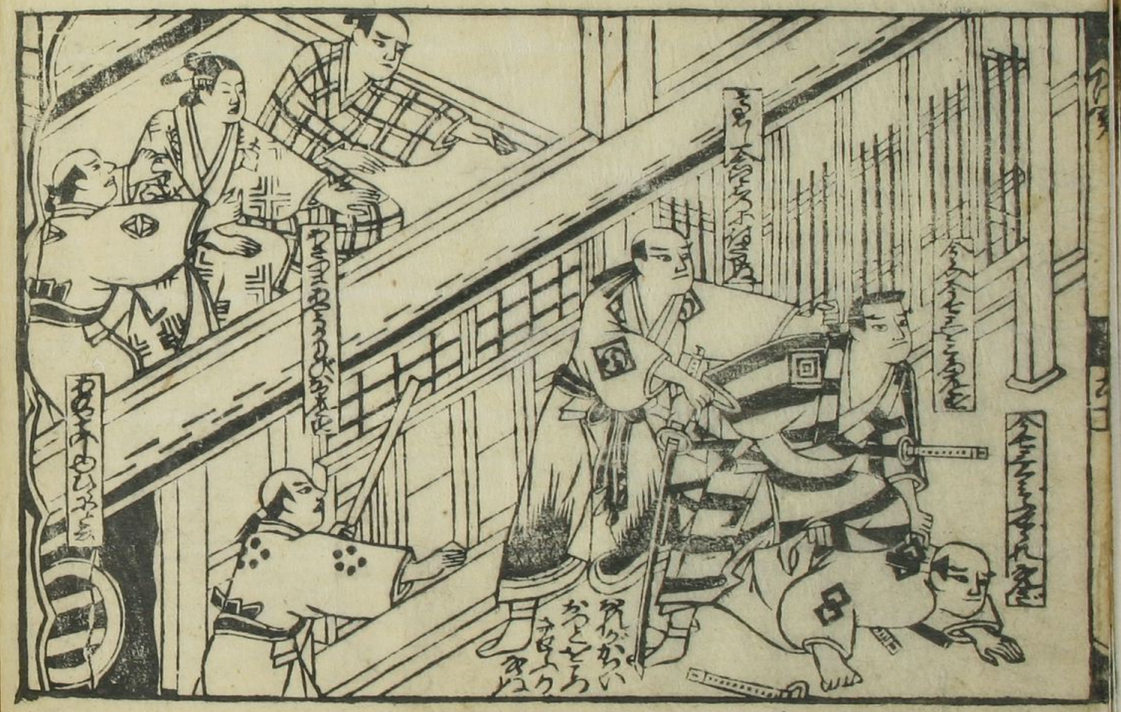
[illegible]

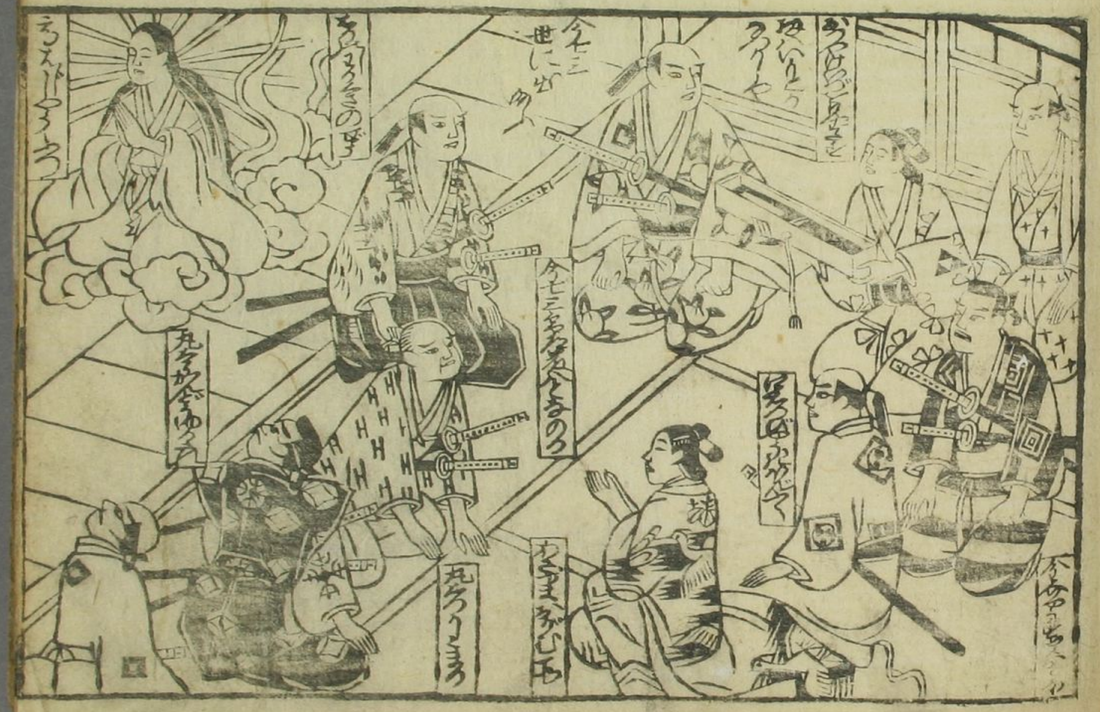
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十四辛巳年七月吉日

二条通寺町西入ル
[illegible]